



タンポポだより

2015
秋号
vol.14

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

白萩

ねがいすくなく
 生くる身に
 白萩こそは
 ふさわしけれ
 しんみん庵の
 白萩よ
 夜々の靈氣を
 その花に
 ふくみて咲けよ
 白露の
 にごりに染まぬ
 光をば
 虹のごとくに
 にじませよ

(真民61歳)



タンポポ堂の庭にて(27.8.11撮影)

館長エッセイ

【第十四回】「坂村真民と一遍上人」展に寄せて

真民流生き方は 一遍上人の生き方そのもの

真民詩とわたし

人生の師を偲び、朴の里に生きる

ほらだ どういつ
原田 道一さん

真民詩を読み解く ⑬

妻の素質に感じ入る

「このひと」

ちょっと手ほどき

『一遍上人』への思いをもっと知ろう

企画展のお知らせ

一遍さんへの理解を深めて真民さんの根源をさぐる
「坂村真民と一遍上人」展

【第十四回】「坂村真民と一遍上人」展に寄せて

真民流生き方は 一遍上人の生き方そのもの

坂村真民記念館では、10月24日（土）から来年の2月28日（日）までの会期で「坂村真民をより深く知るために」第2弾として、「坂村真民と一遍上人展」を開催いたします。

坂村真民の詩を理解するうえで、「一遍上人の生き方とその思想」について学んでおく必要があると考えました。坂村真民の生涯を貫く「生き方」は、「一遍上人の生き方」を求め続けた生き方であったと言えるからです。坂村真民が、生涯「師」として仰ぎつづけたのが、一遍上人なのです。

今回の企画展では、坂村真民の詩を理解するうえで、この「一遍上人の生き方とその思想」が真民詩にどのような影響を与えているのかを知ることが重要であると考え、そのために、一遍上人の歩まれた足跡、その生き方を分り易く多面的に解説し、一

遍上人とはどんな人であったのか、どんな生き方をされた方であったのかをまず理解していただく展示構成とされています。

そして、坂村真民の、「一遍上人を詠った詩」と「一遍上人語録」を通して、一遍上人の生き方とその思想が、坂村真民の詩とその生き方にいかに影響を与えているのかを、「解説パネル」と併せて展示し、坂村真民が生涯を通して求めた「真民流の生き方」が、実は「一遍上人」の生き方そのものであったことを分かり易く展示したいと思っています。

現代の日本人の生き方を考えると、き、「一遍上人の生き方とその思想」は、まさに今の時代の多くの人々の生き方に影響を与え、共感を生み出すものであると考えます。

また、愛媛で生まれ、愛媛で修行を

重ね、全国を遊行して回られた一遍上人は、全国的な知名度に比べて、愛媛ではあまり知られていないのが現状です。そのためにも、もともとと地元愛媛から、「一遍上人」の素晴らしさを発信してゆく必要があるとも考えます。

坂村真民の「一遍上人を詠った詩」を通して、一遍上人の人間的魅力を知っていただき、「一遍上人語録」によつて、さらに深く「一遍上人の生き方とその思想」について、理解を深めていただきたいと思います。

今回の企画展「坂村真民と一遍上人」は、一遍上人の顕彰・研究団体である一遍会、時宗総本山遊行寺、そして一遍上人の誕生された宝厳寺の全面的なご協力を得て、「一遍上人の生き方と思想」を、これまであまり一遍上人について知らなかった方にも、分かり易く体系的に解説していききたいと考えています。

そして、なぜ、坂村真民が一遍上人の後を継ぐことを決心し、その生き方を「真民流の生き方」として貫いたのかを皆さんに知っていただきたいと思えます。

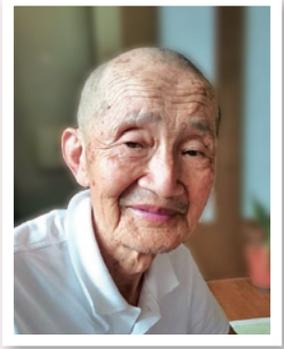


宝厳寺にある真民さんのお墓

約 束（真民72歳）
わたしは一遍上人と
約束をした
あなたは南無阿弥陀仏
決定往生六十万人と書いた
賦算札を配つて
日本全国を歩いたが
わたしにはそんなことはできないし
しても今の世の人々は
喜び受け取ってくれそうもないので
詩誌「詩国」を発行して
あなたの御遺志を継いでゆこう
そう思い
あなたの御誕生地にある
宝厳寺にお参りをし
あなたの足に手を触れ
あなたとの命の交流を乞い
新しい出発を始めた
ああこの聖なる約束を果すため
一年でも一日でも長く生きてゆこう

人生の師を偲び、朴の里に生きる

原田 道一 さん(80歳)



原田さんは、乗鞍岳の麓にある大貴山正宗寺(岐阜県高山市丹生川町)の17世である。6年前に住職を退いた現在も、1枚のハガキによってもたらされた縁を育みながら、真民さんがこよなく愛した朴の国・飛騨で、地域・文化活動に多忙な毎日を送っている。



◀430番碑「念ずれば花ひらく」(左・平成9年建立)と、翌年建立の455番碑「大宇田 大和楽」

◆思いがけない便り

高校教師をしていた私は、30歳を過ぎた頃に人間関係のもつれや宗教上の悩みなどから、失意のどん底にありました。さらにメニエル氏病を発病し、いよいよ入院という時にふと、「坂村真民」の名が頭をよぎったのです。返事はまったく期待せず、「これから入院します」という手紙をタンポポ堂に出しました。すると、入院中の私に真民さんからハガキが届いたのです。一読して「この人だ」という直感とともに、真つ暗な心に一条の光がさーと差し込んできました。

◆忘れられぬ「おむすび」

それから文通が始まり、ある時、私のことを「ポエジーがある」と褒めてくださった。真民さんは「方法のものと詩である」と時々語っておられたので、認めていただいたようで、本当に嬉しく思いました。居ても立ってもいられない思いでタンポポ堂を訪

ねたのは、昭和43年頃。突然の訪問

にもかかわらず歓迎していただき、奥様が大きなおむすびを出してくださいました。「むすびあう、にぎりあう」の心が込められたおむすびのおいしさは忘れられません。

◆飛騨に迎える

昭和46年の秋、当時私が住職をしていた正眼寺を訪ねてくださいました。筵むしろの上に布団を敷くというありさまでしたが、真民さんは「水の音がして、蛙が水に飛び込むような寺が一番いい」と大層喜んで、詩「とこ世の花」(下)を書いてくださったんです。

天に向かつて咲く朴は、真民さんが最も愛する木です。朴の国の山寺で共に過ごし、飛騨の山河が歓喜した夜は、真民さんと私が永遠の師弟の契りを結んだ一夜となりました。

◆生き方の師として

坐禅や詩の朗読などを行う「朴の集い」や、ガリ版刷りの冊子「朴」を出していた私のもとに、ある時、真民さんから「長詩 弥勒の唄」が届けられました。「なぜあなたはうたをうたはねばならないのか／それはうたいつづけねばならないうたがあるからだ」この一節は、詩が生きる証だった真

民さん自身に

向けられると同時に、私に對しての言葉と解釈しました。今私は、現世に思いを残して亡くなっ

た人々の宝物をのちの世に伝えようと、故人の原稿を一冊にまとめる活動などをしています。「根源的生き方の師」である真民さんの無言の教えは、今も私の中で息づいているのです。



▲昭和45年8月、真如会鎌倉結集にて

とこ世の花

念願だった

朴もち

朴みそ

朴のおにぎりを

食べさせてもらい

朴との縁が

いよいよ深くなった

台風十九号の風のなかで

飛騨山中の朴の群れが

葉裏を花のように光らせ

その存在を示してくれたことを

わたしは忘れない

朴よ

人の世を幸せにする

とこ世の花であれ

その存在を示してくれたことを

わたしは忘れない

朴よ

人の世を幸せにする

とこ世の花であれ

妻の素質に感じ入る

「このひと」



このひと

このひとと共に歩いて四十六年
 坂ばかりの道であったが
 今やつといくらか平らかなものとなった
 このひとは生まれながらに
 良いものを持ち
 それが年と共に
 豊かさを加えてきた
 わたしは妻としてでなく
 女としてこのひとを見
 老いてますます
 駄目になってゆく自分と比べて
 どんなにしても勝つこない
 このひとの素質の美に打たれ
 世阿弥の言う
 散らで残りし花を感じる

この詩は昭和56年、真民が72歳の時に書かれた詩です。

坂村真民と妻久代は、真民が朝鮮の高等女学校の先生をしていた、昭和10年3月に結婚しました。真民26歳、久代18歳でした。それから46年経つた年の詩です。

3人の娘をすべて嫁がせ、詩一筋に生きる決心をして、夫婦二人の静かな生活を送るようになって8年が過ぎ、NHKテレビや朝日新聞等で全国的に紹介され、詩人としても充実してきた頃だと思えます。

『自選坂村真民詩集』も版を重ね、その後も順調に「朴」「詩国第一集」「詩集すべては光る」「随筆集念ずれば花ひらく」「随筆集生きてゆく力



真民と久代(昭和58年頃)

がなくなる時」を出版しています。

結婚して46年間、妻には苦労ばかり掛けてきたことや、やつと平穏で少しは楽な生活が出来るようになったことを思い返しながら、妻の心の豊かさ与人間的な素質の良さを、あらためて感じる事があったのだと思えます。そういう時に、この詩が生まれてきたのです。

妻を「妻としてではなく、一人の女性」として見るといえるのは、一人の人間として客観的に見るといえることですね。

老いてますます駄目になってゆく自分と比べて、「年と共に、人間的な豊かさを増してくる」「このひと」の素晴らしさに感じ入っている真民の

嘆きであり、感嘆の詩であると言えます。

「散らで残りし花を感じる」とは、世阿弥が「風姿花伝」の中で、父の観阿弥が52歳で亡くなる直前に駿河の浅間神社で奉納の能を舞った時のその舞について、「動きが少なく控えめな舞であったが、いよいよ花が咲くように見え、見物客も称賛を送った」と書いています。世阿弥は、本当に優れた役者であれば、「老木になっても、花は散らで残りしなり」と言っているのです。

真民も、妻に対して、この「花」を感じていたのだと思います。

現在開催中の「坂村真民と家族の絆展」で展示されている詩や解説パネルでも、真民が「詩記」の中で書き残した、妻久代に対する感謝と称賛の言葉を多数掲載しています。真民が、どれほど妻の人間の素質の良さを感じ、それに助けられ、妻に対していかに感謝をして生きて来たかをパネル展示しております。

どうぞ、真民と妻久代との、夫婦愛のあふれる71年間の心の交流の結果を、記念館で実感していただきたいと思えます。

ちよっと
手ほどき

『一遍上人』への思いを もつと知ろう

真民さんは、日本全国を行脚した「捨聖」一遍上人への崇敬の念を生涯持ち続けました。そこにはどのような思いが秘められていたのでしょうか。

はだしの足にひざまづく

人間としていかに生きるかを自身に深く問い続けていた真民さんの耳に突然聞こえてきたのが、一遍の足音でした。

伊予の豪族である河野家に生まれながら、「南無阿弥陀仏 決定往生六十万人」の賦算札(極楽浄土行の切符)を配りながら捨身行脚を続けた一遍。念仏を唱えつつひたすら歩いた一遍の、そのひそやかな足音が真民さんを取りこみました。

昭和34年9月、残暑厳しくセミの声が降るなかを、宇和島から松山にやってくる真民さんは、人に道を尋ねながらようやく宝厳寺にたどりつき、念願だった一遍の立像に直面しました。その時の感動を次のように記しています。

「立像の跣の足に手を触れ、命の交

流を乞うた。その時、一遍の血が流れ込んできたのである。わたしはあの日を終生忘れないであろう」(『愛の道しるべ』)

一遍の賦算を継ぐ

世俗の欲をすべて捨てた一遍の姿そのままに、瘦せた体に粗末な衣をまとい、手を合わせて一步を踏み出そうとする一体の像。素朴な木像に生命の水の流れを感じるとともに、その足に触れることで一遍の血が流れ込む感覚を覚えた真民さんは、旅の果ての死によって25万人ほどで途絶えた一遍の賦算を継ぐことを決意します。

多くの人に詩を読んでもらうことで、一遍の果たせなかつた賦算を引き継ぐと、真民さんが詩誌『詩国』を発刊したのは昭和37年、53歳の年でした。

人生の公案は「捨」

妻子を連れて出家の旅に出た一遍のもとには、女性や虐げられた人々が数多く集まりました。社会的弱者に平等に注がれる一遍の愛に強く惹かれるとともに、一遍の教えの根本である「捨」を人生の公案として追い求めたのです。

紀野一義さんとの対談で、真民さんはある人の体験談を紹介しています。瀬戸内海で船が沈没して渦に巻き込まれた時、生きようという考えを捨てて、渦に身を任せたところ、何度か浮き沈みをしたのちに体が浮き上がって助けられた。渦に巻き込まれまいともがいた人の多くが水死したのだからと、「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」の言葉どおりだったということです。

その一方で、次のようにも記しています。

「捨は」生き方であり、死に方なのである。それも、捨て切つて枯木のようになつたらおしまいである。枯木には花は咲かない。古木の紅梅は枯木のように見えるけれども、春になると実に可憐な花をつける。それは若木の花

よりも清艶優雅である。そういうのを『捨』という。一遍上人の捨にはそういう匂い、艶、暖かみがある」(『一遍上人語録 捨て果てて』)

賦算の再開

42年間にわたり発行された『詩国』は、平成16年に終刊を迎えました。詩作から発送まで、一連の作業が真民さんにとつての「行」でしたが、多くの人を力を借りて約6000人に送られるようになったことから、心が届く範囲を超えたと感じた真民さんは500号で区切りをつけ、「鳩寿」を新たに刊行。一遍像と邂逅した瞬間の魂の慄きを今ひとたび心のうちに蘇らせ、新たな気持ちで一遍の賦算を再開したのです。真民さん、95歳のことでした。

(太田由美子)



▶一遍上人を慕う真民さんが配布した賦算札。平成に入ってから「大宇宙大和楽」もあわせて使われるようになった

企画展のお知らせ

一遍さんへの理解を深めて真民さんの根源をさぐる 「坂村真民と一遍上人」展

期間

平成27年 10月24日(土)
～平成28年 2月28日(日)



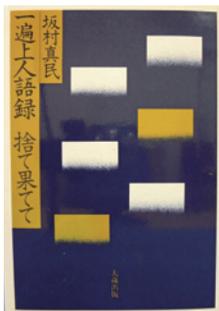
宝蔵寺

坂村真民の人生とその詩に、大きな影響を与えた一遍上人

坂村真民は、50歳で一遍の後を継ぐと決意し、生涯その気持ちを持ち続け、60代からは「一遍上人の生き方」を自分流に当てはめて、「坂村真民流の生き方」を身につけました。現代の日本人の生き方を考えるとき、一遍上人の「捨ててこそ」の生き方は、大きな指針となるものと考えます。

今こそ、私たちは、「一遍上人の生き方」を深く受け止めるべきではないでしょうか。

坂村真民の「一遍上人を詠った詩」を通して、一遍上人の「人間的魅力」を知り、「一遍上人語録」によって、さらに深く一遍上人について、理解を深めてゆくことが出来るよう、また、「一遍上人の生き方とその思想」を、残された資料によって、現代人にもより分かりやすく理解できるように、「解説パネル」や「貴重な資料」等を使った展示構成となっております。



◀坂村真民著「一遍上人語録 捨てて」大蔵出版



▶一遍上人像(平成25年8月の火事により、全焼)

一遍智真
捨て果てて
捨て果てて
ただひたすら六字の名号を
火のように吐いて
一処不在の
捨身一途の
彼の狂気が
わたしをひきつける
六十万人決定往生の
発願に燃えながら
踊り歩いた
あの稜々たる旅姿が
いまのわたしをかりたてる
芭蕉の旅姿もよかったにちがいないが
一遍の旅姿は念仏のきびしさとともに
夜明けの雲のようにわたしを魅了する
瘦手合掌
破衣跣の彼の姿に
わたしは頭をさげて
ひれ伏す

記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館はオープンして3年が過ぎ、来館者数も5万5千人を超えまして、その内3分の1は県外からのお客様です。北は北海道から、南は沖縄県より、ほとんど毎日、県外からの来館者があります。本当にありがたいことです。

また、来館者の半数は、今まで坂村真民の詩を読んだことがない方で、そういう方もほとんどの方が、「またゆっくり来たい」と言って帰られます。

記念館では、こうした方々にもできる限り「次回の企画展のお知らせ」をお送りして、来館者を増やす努力をしていますが、まだまだ記念館の維持管理費用を賄うだ

けの収入には結びつきません。砥部町からの支出によって成り立っているのが現状です。

是非皆さんのお力によって、少しでも自力で賄えるように、「友の会の会員」が増えることを願っております。どうぞ、お知り合いの方にも、声をかけてください。

詳しいことは、記念館までお問い合わせください。よろしく願いいたします。



坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



本年7月、真民先生の盟友の一人、石川洋先生が他界された。

- ・ 歩いたあとに一輪の花を咲かせたい
- ・ よいことをして忘れること
- ・ 逃げたらあかん etc

『行願』というトイレ掃除を「一燈園」西田天香先生の元で修業された。
また、沖縄・韓国・カンボジアまで、多くの支援された托鉢者^{たくはつ}でした。
御多用の中、西澤真美子さんも葬儀参列たまわりました。 合掌

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)

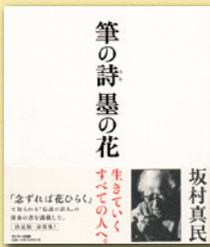


住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

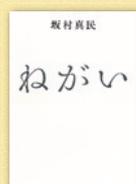
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!



定価=本体3500円+税

筆の詩墨の花

サンマーク出版



随筆集 念ずれば花ひらく

随筆集 めぐりあいふしぎ

随筆集 愛の道しるべ

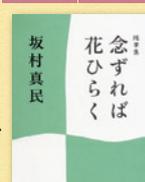
坂村真民の本

ねがい

東日本大震災復興
への祈りをこめた
特別版詩集。

定価=本体950円+税

定価=本体各1800円+税



詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし



定価=本体各1000円+税



刊行後16年で
10万部の
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ

医療法人 徳真会グループ



「医療は人なり」の診療概念をもとに患者第一主義の歯科医療グループです。
国内外39ヶ所の歯科医院を展開し、年間約80万人の治療に携わっております。

総合メディカルビル

QUARTZ TOWER

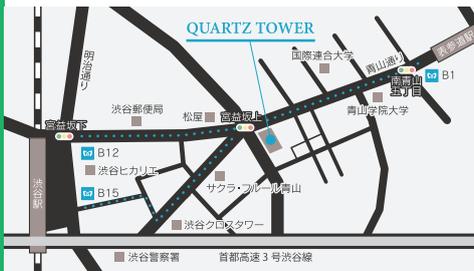
2015年11月 OPEN予定

<http://www.quartztower.com/>



QUARTZ TOWER では、総合歯科医療サービスに加え、医療、ヘルスケア、審美、エステまで含めた、総合メディカルサービスを最高の空間で提供します。また、国際医療機関認証 (Joint Commission International) の認証を歯科単体で国内初の取得を目指し、国際基準からみても質の高い医療サービスを提供することにより、一般外来だけでなく、外国人やスポーツ選手など幅広い患者様のニーズに対応できる徳真会グループの新たなブランドを展開します。QUARTZ TOWER は時代先駆の歯科医療の創造を目指す、世界に類を見ない新たな医療施設となります。

【QUARTZ TOWER に関するお問い合わせ】
住所：東京都目黒区目黒 1-6-17 目黒プレイスタワー 14 階
電話：03-6431-9809 広報担当まで



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください [坂村真民記念館 友の会](#)

〈編集後記〉「坂村真民と家族の絆展」も、10月18日までとなりました。これまであまり知られていなかった「3人の娘への愛情あふれる詩」に、じっと立ち止まって涙を流す人を多く見かけます。私も初めて『自選坂村真民詩集』を読んだとき、こんなに純粹で清らかな詩があるのかと感動したのを思い出します。まだ「坂村真民と家族の絆展」に来館されていない方は、是非お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、砥部にお出かけ下さい。(西)

タンポポだより vol.14 秋号

平成27年9月1日発行 表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

【坂村真民記念館】

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり